

(水稲)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1. 除草剤について

除草剤を良く効かせるには、雑草発生前から発生初期の散布が有効です。田植後1週間以内を目安に、遅れないよう散布しましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり 散布量
スラッシャ1キロ粒剤	田植後0日～ノビエ2.0葉期まで	1kg
シリウスターボ1キロ粒剤	田植後5日～ノビエ2.5葉期まで	1kg
シーゼットフロアブル	田植後0日～ノビエ1.5葉期まで	800ml
ナイスショットジャンボ	田植後3日～ノビエ2.0葉期まで	10パック
ショウリョクジャンボ	田植後0日～ノビエ2.0葉期まで	10パック

※ノビエ2.0葉期の目安は、おおむね代かき後10日程度である。

※シリウスターボ1キロ粒剤及びショウリョクジャンボは、いぐさに対し薬害を生じるので、隣接田では使用しない。

2. 水管理について

除草剤散布後は、除草効果を発揮させるために最低4日以上(できれば7日以上)、水をため続けます。その後は、分けつ促進とジャンボタニシの食害防止のため、浅水での間断かん水を基本とします。

また、麦わらすき込み田では、ガス害が発生する場合があります。ガスが発生した場合は、落水し田面を軽く干して、ガス抜きを行います。

3. ジャンボタニシ対策

- ・ジャンボタニシによる被害は、移植後3週間程度(水稲6葉期)までです。
- ・水稲が大きくなれば、雑草を食べてくれるので上手につきあう事が大切です。

〈食害回避の方法〉

- 浅水管理・・・浅水状態または間断かん水で管理します。
- 誘引法・・・ナスやキュウリなどの切片をタニシが集まっている箇所に入れると、ジャンボタニシはそちらの方に集まり水稲の被害が軽減されます。
- 薬剤散布・・・湛水状態でスクミノンを2kg/10a散布します。水口など、タニシの多いところを狙って散布すると、効果が高いです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!